

2011年11月4日

関西メンタルヘルス大会 提言 「企業と社会をつなぐメンタルヘルス対策に向けて」

公益財団法人 関西生産性本部

わが国のメンタルヘルス問題は、長期化・深刻化しています。社会に蔓延するこの問題は、個人生活の破たん、企業の生産性低下などを招き、大きな損失を生じさせています。

この厳しい現状を改善すべく、これまでにさまざまなメンタルヘルス対策が講じられてきましたが、問題の根はあまりにも深く、わが国のメンタルヘルスは不健全な状態からなかなか脱却できずにいます。近年では、“新型うつ”などの新たな問題も担当者の悩みの種になっており、現場での対応も困難を極めているというのが現状です。

そこで、メンタルヘルス対策の今後の方向性を定めるべく、以下のとおり提言します。

提言1 有意義なコミュニケーションと最適な関係の構築

個人と組織の双方がその強みと弱みを自覚し、適正な自信をもち、他者や社会と有意義なコミュニケーションをとり、最適な関係を築くことで、その資質を最大限に活かすこと。また、メンタルヘルスに関する偏見の排除に努めること。

提言2 産業精神保健のためのPDCAサイクルの構築

労使は、産業精神保健のためのP（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルを構築し、適切に運用するため、生産的な協働を果たすこと。特に、不調者への対応にあたっては、個別事情に配慮しつつ、厳しさと優しさのバランスを重視すること。

提言3 専門機関と社会の連携

専門機関等は、その専門性の維持向上と知見の公開に努めるとともに、適正な情報交換を含め、企業その他社会との連携に努めること。

以上